てゐる。但し家屋，倉庫……等の如き建築物内に於ては，タマゴバヘにやられてゐるところの卵嚢は見られない。故に此の蠅は人類にとつて特殊の威嚇であるところの人家……等に於てはゴケグモの抑制上，取るに足らぬものになるわけである。

尚ほ此所で一言附說するを要することがある。それはキモグリバヘ科のクモタマゴバヘは同一種でもいくつかの種類の蛛卵を冒すものがあり，現に第4項で例に假りた *Gaurax araneae* の如きは，ヒメグモ，ゴケグモ，オニグモ，コガネグモ〔米國產 *Miranda anrantia* (= *M. riparia* = *M. cophinaria*) であつて日本のナガコガネに似た種類〕……等の卵嚢に進入することが知られてゐる。

日本產のクモタマゴバヘは，少くとも種類はあるが，今日，分類がよくわかつてゐない。日本產のゴケグモ卵嚢に此の蠅の寄生するか否かは今日まだ不明である。世の同好各位の研究を俟つ。（完）

みだれかご (2)

加藤正世

◇要領のいゝオニグモ

電燈のある處には多少なり共昆蟲が集るものである。それをどうして知るのかオニグモはいつの間にかやつて來て網を張つて居る。此の蜘蛛の特徵として晝間は寢て暮して電燈のつく頃になると出て來るのである。

筆者の研究室の窓外にちやんと網を張つて居るが，原稿を書き乍ら夜間採集をやる筆者には迷惑千萬な事である。

少しく茶目氣を出して何週間か前に採つて，既に乾物になつて居るコオニヤンマを引掛けてやつた處，隅の方にひそんで居たオニグモが出かけて來て死骸

にグルグル絲を捲きつけて，ボリボリと嚙り出した。死んで居ても絲を捲きつける處が面白い。

◇雄の作る網はなぜ貧弱か

元來が蜘蛛の雄には姿からして貧弱なものが多い。殊にヂヨラウグモ，オニグモ，コガネグモ，ゴミグモ等がその代表者とも云ふべく，雌が堂々たる體軀を有し，立派な網を張るに比して，雄は雌の何割かの大きさしか無く，その網の如きも貧弱であつて，ほんのおしるしに過ぎないものである。

又雌に對する雄の動作は兢々として氣の毒の至りであるが，これは人間社會にも無いとは云へないから餘りくさすわけに行かないが，要するに雌は充分に營養を攝つて立派な子孫を殘さなければならない責任があるので，體も大きく立派な網を張るのであるが，雄は單に生殖細胞を雌に呈上することに依て役目はすむのであるから，露命さへつなげればそれで事足りるのである。此處に於て自然は彼等に必要なだけの姿と能力としか與へないのである。

◇ヤマシロオニグモとベツカフバチ

ヤマシロオニグモが圓くなつて下つて來た。何事が起つたかと見て居ると草の葉に觸れると大急ぎで裏の方へ隱れやうとした。然し追ひかけて來た眞黑なベツカフバチの一種に發見されて遂に槍玉に擧げられてしまつた。一旦見つかつたら最後到底逃れられるものではない。

◇蜘蛛の網の標本

ナカムラオニグモの巢（網の一端に作る鳥の巢形のもの）や，デグモの袋はそのまゝ標本にして置くことが出來るが，その他のものは中々むづかしい。筆者はコガネグモの網を，重要部分のみではあるが次の樣な方法で保存することに成功したから御紹介して置かう。

先づ幅5mm 位な薄い木を四本組んで長方形の枠を作り，片方にセルロイドの溶液を塗りつけてそのまゝ網の上に貼りつけ，後その周圍の不要の絲を鋏で切り取つて持ち歸るのである。これの四隅に留針を刺して1cm 位下へ出し，

底に黑紙を貼布した標本箱へ收めるのである。トリモチのついて居る方は裏面にしなければならない。

これに更に乾式標本にした蜘蛛を配せば理想的である。網は相當强いから，標本の肢の先に極く僅かのセルロイド液をつけて絲に乘せるのである。セルロイド液の作り方は透明のセルロイド屑を壜に入れて醋酸ア　ールを注げば溶けて糊狀になる。濃度は適宜に作らなければならないが，濃すぎれば醋酸アミールで薄め，薄ければセルロイドを追加すればいゝ。

液潰標本の一方法

標本はなるべく美しく作る方がいゝ。殊に蜘蛛の樣に餘り華かでない動物は一層その感を深うするものである。筆者は次の樣な方法に依つて見た。

採集の際は必ず生かしたまゝ持ち歸らなければならない。それにはパラフイン紙で２寸×2.5寸位の袋を澤山作つて持つて行き，一匹宛その中へ（潰れるのを防ぐ爲枯草を一緒に入れる）入れて口を折り曲げ小箱にでも入れて持ち歸る。歸宅後そのまゝ毒壜に入れて殺して置く。

〔準備〕 管壜，その管壜に丁度はいる寸法に切つた硝子板（不要の乾板のフイルムを洗ひ落したものがいゝ），トラガントゴム，酒精。

材料を硝子板にトラガントゴムで粘着し，觸鬚や肢を伸して貼りつけ，トラカントゴムを乾燥させる。加熱してもいゝ。充分乾いたならば，それを管壜に入れて酒精を注入，栓をすればいゝのである。そして栓の周圍に前記セルロイド液を塗つて液の發散を防ぐことも必要である。若し殺したてゞ肢が自由に伸びない時は暫く時間がたつてから行ふのである。餘り軟かくなり過ると腐敗の一歩前になるから注意しなければならない。

大型の種類で標本壜に納める樣なものは，トラカントゴムでは弱すぎるからセルロイド液を用ひて，先づ胸部を貼りつけ，それが乾固してから（二分もたてば充分）各肢の末端を貼りつけ，整肢する。此の場合酒精を用ひる時はセルロイドが白くなつて醜いから，次の液を用ひる。〔醋酸（50）＋フオルマリン

(20) ＋ 水(30)〕。硝子板に標本を貼る前に，板面を醋酸アミールで充分に拭つて置く方が，セルロイド液がよくなじんで剝れ落ちる恐れがない。

◇蜘蛛の母性愛

自分の夫を夫とも思はずいらなくなれば營養分の一部としてしまふ雌蜘蛛も子供乃至は卵に對しては相當の愛情濃やかな場面が見られる。これは持て生れた本能であるから，感情複雜な人間社會の夫れとは同名異物ではあらうが，キハダエビグモやドクグモの類或はヒラタグモ等が卵嚢を作つて居るのを實驗すれば直ちに了解出來やう。

キハダエビグモは樹皮上に棲むひらたい蜘蛛であつて，捉へやうとすれば極めて迅速に這ひ廻り，容易に捕獲することが出來ないが，卵嚢を護つて居る場合にはじつとして，いくら觸れても逃げやうとせず，文字通り死守するのである。

Lycosa の場合には常に卵嚢を腹端に附着して移動して居るのであるが，それを奪ひ取つてしまふと，蜘蛛は今までの動作と全く打つて變つて非常に遲鈍となり，その邊をウロウロ探し始める。そこへ卵嚢を落してやると，やがて見つけて口に咬へて大急ぎで走り去る。そうはさせじと度々繰返しては行動を觀察する內に，體に傷ついて半死半生になるが，それでもフラフラと倒れては立ち，立つては轉びつゝ卵嚢の行方を尋ね廻る姿は，いくら何でも可愛さうになる。

Lycosa の類は，孵化後暫くの間腹背に子蜘蛛を負ふて居るが，此の時は子供を取つても別に探し廻る樣な事はしない。

◇藝術的な卵嚢の色々

卵嚢の形は種類に依て一定して居るものであつて，その形には中々面白いものが少くない。これを特に蒐集して標本とすることは誠に興味の深いものである。處が生きたまゝではやがて子蜘蛛が出て來るから，管壜の樣なものに入れて加熱して卵を殺して置くのである。液漬よりは乾燥にして置く方がいゝ。

蜘蛛の卵嚢は母蜘蛛の最後の最大努力の結晶であることを忘れてはならない

◇家の中の蜘蛛

風呂場の一隅にイヘオニグモが網を張つた。拙宅の中は蜘蛛が網を張つても取りもせず殘して置くから，人に見られたら隨分無精に見えるだらうが，斯して置いて折にふれて觀察して見るのも面白いものである。網がほこりにまみれて汚くなつたら取り除けばいゝ。そうすれば一夜にして新らしくなつて居る。

家の中で一番幅をきかして居るのはオホヒメグモで，大小樣々のものが至る處に見られる。これは雌雄共に同じ樣な網を張る。風呂場にイヘオニグモが網を張つた。充分成長してから標本にするつもりで毎日觀察して居た爲，或る日それの♂が巣に居るのを發見した。早速前に述べた樣な方法で網をそつくり取つてそれに乾式標本にした雌雄をその位置に取りつけて生態標本を作つた。

♂蜘蛛が一體どこからやつて來たものか，よくも探し當てゝ來たものだと思ふ他云ひ現はしやうがない。

タナグモは廊下の天井に數頭白い網を張つて居る。近頃ではテナガグモが廊下を横斷する網を張るので困つて居る。そつとして置いてやりたいのだが，通行妨害になるのでどうにもならない。

ハヘトリグモは數種類窓の附近に出沒して居るが，名稱は調べて居ない。イウレイグモは未だ來て居ないらしい。夜になとと *Lycosa* の或る種や，エドコマチグモ等が入つて來て歩き廻り昆蟲を捉へては食つて居る。

家屋の外側にはオニグモ，コガネグモ等窓の近くに網を張つて居り，ヒラタグモの白い隱れ家も隅の方に散見される。一昨年はジョラウグモが日當りのいゝ廊下の隅で越年したが，其の後はいつて來ない。

私が最も不思議に思ふのは，新築して間もなく，何處からともなくオホヒメグモが移つて來ることである。隣り近所の無い一軒家をどうして探し當てるのであらうか。

正　誤　前號77頁12行”前脚に傳る振動”は”全脚”の誤植である。